

平成29年度 県立石岡商業高等学校自己評価表

目指す 学校像	生徒の人格を重んじ、地域社会の要請に応えながら激しく変化する社会に柔軟に対応できる力を育むと共に、社会に有為な調和のとれた人間の育成に努める。				
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況	
<p>県高等学校情報処理競技大会で、個人優勝及び3位と2人が入賞し、全国大会に出場した。また、県球算競技大会で2位に入賞し、全国大会に出場した。運動部では、少林寺拳法部が関東大会に出場した。</p> <p>学習面では、簿記・情報処理・電卓等の資格取得に熱心に取り組み、全商協会主催の検定試験で1級の合格者が前年度より約40%増加するなど、商業高校ならではの特色を出すことができた。</p> <p>進路面では継続して国立大学の合格者を出し、就職では3年連続で地方銀行に内定者を出すことができた。</p> <p>生徒指導では、基本的な生活習慣の確立を目指し、服装・頭髪・登校指導を定例で行うことで、全体として遅刻者が前年度と比べて約27%減少した。</p> <p>また、学校行事に熱心に取り組む姿が見られる反面、部活動加入者の定着率が低下しており、部活動の活性化が課題となっている。</p> <p>今後は、教職員の共通理解の下、進路実現に向けた基礎学力の向上と規範意識のさらなる高揚を図りながら、特別活動の充実を目指し、地域から信頼される元気で明るい学校づくりに努めたい。</p>	1	授業の工夫・改善を図り、確かな学力を育む	①指導方法の工夫・改善を図り、学力の向上を図る。 ②資格取得を通して学力を養成し、希望進路を実現する。	B	
	2	規範意識を醸成し、基本的な生活習慣を確立する	①体験活動を通して、規範意識・社会性・思いやりの心を育てる。 ②面談や教育相談を活用し生徒理解を深め、信頼関係を醸成する。	B	
	3	組織的・系統的なキャリア教育を推進する	①1年次から進路に対する意識を涵養する。 ②体験的学習を通して、基礎的・汎用的能力を育成する。	B	
	4	特別活動の充実を図り、豊かな心を育む	①特別活動を通して、心の居場所となる学級・学校づくりを推進する。 ②生徒会活動、部活動を活性化し、リーダーとなる人材の育成を図る。	B	
	5	地域から信頼される学校づくりを推進する	①中学校や地域との連携を推進する。 ②地域へ積極的に情報を発信する。	A	
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
教科指導	基礎学力の向上を図る。	ICT教材の活用など計画的に課題等を与えることで、基礎・基本の徹底を図る。1-①	A	A	・生徒の授業に参加してる実感は増ってきているので、さらに充実させていきたい。 ・上級資格の取得に向けてさらに努力していきたい。
	生徒の自主的学習意欲を喚起するとともに、商業検定試験の合格率向上を図る。	生徒の実態に応じた指導法の工夫・改善に努め、「参加する授業」を心がける。1-① 各種検定試験にあわせて、課外等を計画的に実施し、すべての検定において前年度合格者数を超えるよう指導する。1-②	B A		
	上級資格取得への意識の向上を図る。	生徒が希望する進路実現のための方策として、各種上級資格取得の援助を行っていく。1-②	A		
特別活動	部活動の活性化と生徒会活動の充実を図る。	部活動の加入率を上げるとともに、生徒会活動を活性化する。4-②	B	B	・行事運営の効率化と部活動の活性化を図る。 ・ボランティアの積極的な参加を促進する。
	文化的・体育的学校の行事の充実を図る。	文化祭・クリスマスマッチ等を実施し、感性を育て、クラスの連帯意識を培う。4-①	B		
生徒指導部	生徒の自発的活動の促進を図る。	生徒会活動及びホームルーム運営等で、生徒の自発的活動の促進を図り、適切な指導、援助を行う。4-①	B	B	・問題行動は少なくなった。ただ、昨年度同様にモラル、マナーの低い生徒がいる。 ・遅刻は少なくする傾向はあるが、一部の生徒で遅刻の多い生徒がいる。 ・マナー、モラルを守った生活ができるようになる生活が指導していきたい。 ・SNSの使い方に問題がある。
	基本的生活習慣の確立	学校生活の場面で、我慢すること、辛抱する気持ちを育成していく。2-②	B		
	1. 頭髪・服装	生徒の人格、立場を認めた上で、粘り強く指導する。2-②	A		
	2. 遅刻	生徒本人⇄学校⇄保護者間の連絡を密にし、家庭の躰でご協力頂く。2-②	B		
	3. 礼儀	各カードを用意し、段階を追っての指導で自覚を促していく。2-②	B		
		登校指導表・頭髪チェック表・異装願い・遅刻調査を行い段階的に指導する。2-②	A		
		体罰に頼らない指導を心がける。1-①	A		
	交通安全の徹底指導	HRや集会、講演会などで年間を通して指導していく。2-①	A		
	1. 原付バイク	年間指導計画を立てる。2-①	A		
	2. 自動二輪車	定期的な見回りや、地域との密接な連絡を図っていく。5-①	B		
	3. 普通乗用車	3年生第4回定期テスト終了後より自動車教習所を訪問し、情報交換を重ねる。5-①	A		
	非行の未然防止	日頃から生徒をよく観察し、非行の兆しに敏感になっておく。2-②	A		
	1. 喫煙	喫煙、飲酒等発覚の場合は、保護者と連絡を取り生活習慣の改善を促していく。講演会も実施していく。2-②	A		
	2. 飲酒				
	3. 無届アルバイト	手続きをできるように指導する。(原則アルバイト禁止)2-②	B		
4. 無断外泊	生徒本人 ⇄ 学校 ⇄ 保護者間の連絡を密にし、保護者を交えての指導を行う。2-②	A			
※クラスマッチ・石岡祭礼					
教育相談					
1. 不登校	早期の発見を心がけ、面接、家庭訪問、SCや県教育研修センター、外部医療機関と連携し対応に当たる。2-②	A			
2. 指導拒否					
3. 長期欠席					
4. いじめ	担任が一人で問題を抱え込むのではなく、学年、生徒指導部等、チームでの対応とし、段階的に指導していく。2-①	A			
進路指導部	1. 進路について理解を深め、能力・適性に合った進路決定させる。	進路講話、ガイダンス等の開催、また進路情報の提供などを通して、進路に対する考え方や態度を早期から養う。3-①	A	B	・スタディサブリの継続と効率的活用 ・進路ガイダンスの充実 ・インターンシップ企業の開拓
	2. 進学に対する啓発を図り、上級学校への進学を決定させる。	進学希望者に対して、基礎学力の向上を図るとともに、個別面談を通して指導を行い合格に結びつける。また資格を生かした進学についての情報提供に努める。1-②	B		
	3. 職業の意味や労働の目的を理解させ、正しい職業観・勤労観を確立させる。	就職希望者に対して、企業訪問、企業見学など積極的に行い、基礎学力や資格取得などの能力向上を図るとともに積極的な就職活動を勧め就職内定に結びつける。面接指導を充実させる。1-②	B		

教 務	授業時間を確保する。	行事の実施日が特定曜日に偏らないように年間計画を立てる。1-①	B	B	・統合校務支援システムの本格的導入と運用方法の確立 ・成績不振者の連絡方法 ・授業力向上に関連した研修の実施
		出張、年休時の授業交換を確実にし、授業時間の確保に努める。1-①	A		
	行事の円滑な運営に努める。	事前の準備や他の校務分掌部との調整を早めに行う。1-①	C		
		行事実施後、課題や問題点を確認し、次の運営に備える。1-①	B		
	充実した教育課程を編成する。	基礎科目に重点を置き、生徒の希望に対応できる教育課程の編成に努める。1-①	B		
	選択科目説明会を実施することで、生徒の希望に合った科目選択をサポートする。3-①	A			
	広報活動の充実を図る。	本校教育活動の紹介を、ホームページや広報紙等を利用し情報の提供に努める。5-①②	B		
		保護者、学校評議員、近隣中学校、地域の方々の声を真摯に受け止め、学校運営に生かす。5-①②	C		
保健厚生	心身ともに健康でたくましく生きることができる人間の育成をめざし、健康の保持増進に努める。	心身の健康状態の把握に努め、生徒が自主的に自分の健康を保持増進できるよう適切な指導・援助を行う。2-①	A	A	・今年度同様の活動をしていきたい。 ・地域と連携した活動をしていきたい。
	学年・担任との連携を図り、健康に問題のある生徒の指導と管理に努める。	学年との連携を図り、積極的に健康相談を実施する。2-②	A		
		教育相談をカウンセラーと協力しながら充実させる。2-②	A		
	地域と連携した、防火防災に対する心構えを身につける。	早い時期に避難経路を理解させる。地域と連携した実践が出来るようにする。5-②	B		
	望ましい教育環境の整備に努める。	環境美化意識を高め、清掃がやりやすい状況を作る。2-①	A		
図 書 館	学習・情報センターとしての整備・充実を努める。	各教科から生徒に薦める図書をあけてもらう。1-①	B	B	・図書館利用の活性化
	図書委員会活動の活性化に努める。	図書委員会を適宜に開催する。4-②	B		
	図書館利用の振興と図書館行事の充実を努める。	新着図書を「図書館だより」等で広報する。1-①	B		
	視聴覚教育の充実を努める。	現在保有の視聴覚機材・資料等のより一層の利用の便宜を図る。1-①	B		
渉 外	P T A、後援会、同窓会との連絡を密にする。	各種行事への出席者を増やす方法・内容を充実させる。	B	B	・行事の運営を工夫し、さらに効率的な運用をめざす。
	P T A活動の活性化を図る。	P T A・後援会・同窓会との親睦を図るとともに、効率的な運用を目指す。 総会・支部総会・理事会・生徒指導委員会・広報研修委員会の見直しを図る。	A		
第 1 学 年	基本的な生活習慣の育成に努める。	高校生活が無事スタートできるよう、入学後オリエンテーションを実施する。2-②	A	B	・成績不振者に対する教科担当者と連携した指導 ・SNSトラブルを防ぐための指導を継続的に行っていくと共に正しい倫理観や道徳心の育成に取り組む。 ・スタディサブリの効果的な運用 ・進路ガイダンスを実施し、適切な時期に適切な情報を提供していく。
		生徒の個人面談を年2回程度実施し、生徒理解に努めるとともに必要に応じて関係機関と協力し、健全な高校生活が送れるように支援する。2-②	B		
		登校指導やHRにおいて挨拶の励行や、正しい言葉遣いやきちんとした制服着用の徹底を図る。2-②	B		
		頭髪・服装指導を徹底して行い、身だしなみを整えさせる。2-① 3-①	B		
		進路ガイダンスを実施し、進路に関する意識の高揚を図る。3-①	B		
		HRや個人面談を通じて自分の将来を考えさせるとともに、その実現に向けて、部活動の参加や資格取得への取り組みを促すなど学校生活の充実を図る。3-①	B		
	学習指導の充実を図る。	教科担任と連携し、授業態度や課外への出席状況など生徒の実態把握に努める。1-①	A		
		I C T教材による基礎学力の更なる向上に努める。1-① 1-②	B		
	自他を大切にし、豊かな心を育てる。	学校行事を通じて協調性を大切にする心を育てる。2-①	C		
		L H Rや総合的な学習の時間（道徳）を通じて、他人を思いやる心の育成に努める。2-①	C		
第 2 学 年	規律ある生活態度の確立を図る。	登校指導やHRにおいて挨拶の励行や、正しい言葉遣いの徹底を図る。2-②	B	A	・身だしなみ、言葉遣いなど社会人に通じる生活習慣を確立していく。 ・進路におけるガイダンスや面接指導及び進路学習を実施し、卒業後の進路希望を明確にし、実現できるよう積極的に取り組む ・HR活動や学校行事を通じて、生徒個々の考えや意見を尊重できる態度を養う。
		集会や遅刻指導等で、時間を守る習慣を身に付けさせる。2-②	B		
		服装・頭髪をきちんとさせる。2-②	B		
		清掃を徹底し、生活環境の美化に努めさせる。2-②	B		
		進路ガイダンス・インターンシップ等の様々な機会を通して、進路に対する意識の高揚を図る。3-②	A		
		HRや個人面談等で進路目標の早期決定に向けての指導にあたる。3-②	A		
	進路希望の実現に向けて、上級資格取得の推進を図る。3-②	A			
	学習指導の充実を図る。	教科担任と連携しながら、授業を大切に、真剣に取り組む姿勢を育てる。1-①	B		
		S H R時の小テストを充実させ、基礎学力の向上に努める。1-①	B		
		検定試験に向けての課外授業等に積極的に参加させ、上級資格取得を目指す。1-①	A		
	自他を大切にし、豊かな心を育てる。	L H Rや修学旅行等を通して、他人を思いやる心の育成に努める。2-①	B		
		清掃・HR等を通じて、物を大切にする心を育てる。2-①	A		
		HRや集会等を通して、社会マナーや交通ルールを身につけさせ、他人を思いやる豊かな心の教育に努める。2-①	A		
第 3 学 年	規律ある生活態度を育成する。	服装・頭髪指導の徹底を図る。2-②	B	B	・SHR時のドリルは、方法や回数等に改善を要する。 ・正しい言葉遣いができるように指導を徹底する。
		挨拶・正しい言葉遣いを励行する。2-②	C		
		時間厳守・清掃の奨励を図る。2-②	B		
	進路指導の充実を図り、希望進路の実現を目指す。	HRや個人面談等で進路意識の高揚を図り、進路目標の早期決定及び希望進路の実現に向けて指導にあたる。3-②	A		
		就職や進学試験における面接や作文、適性検査への対応を図る。3-②	B		
	学習指導の充実を図る。	日々の授業やSHR時のドリルを充実させ、基礎学力の向上を図る。1-①	B		
		上級検定資格取得に向け、積極的に取り組ませる。1-②	B		
	心の教育の推進を図る。	特別活動を通して、自他を大切に、他人を思いやる豊かな心の教育に努める。2-① 5-①	B		
		HRや学年集会を通して、社会マナーや交通ルールを身につけさせ、その重要性を理解させる。2-①	B		

教 科	国 語	基礎学力の向上を図る。	漢字力の向上を図り、豊かな言語力を身に付けさせる。 1-①	A	A	・家庭学習時間の増加を図る。 ・生徒が自ら学ぶ意欲が持てるように、国語科で購入した電子辞書の活用方法をさらに工夫する。
			机間指導等によるきめ細やかな指導を行い、その成果と課題を明確にし、次年度への改善策を検討する。 1-①	A		
			自宅での課題に取り組みさせることで、学習習慣の定着を図る。 1-①	A		
		読書力を伸ばし、読書の習慣化を図る。	授業で扱った教材に関連する本を紹介する。 1-①	B		
			指導者自身の読書体験を紹介する。 1-①	A		
			図書館の利用を促す。 1-①	B		
		生徒が理解しやすい授業への改善に努める。	授業内容、方法、進捗等について教科内で研究協議する。 1-①	A		
	地 歴 公 民	興味・関心を高め、学習意欲を向上させる授業の展開。	各種研修会に積極的に参加し、教科内で発表するとともに自己研鑽に努める。 1-①	A	A	・進路決定において求められる基礎学力を定着させる。 ・教科書に加え諸資料を積極的に活用し、生徒にとって学習意欲を高める授業方法を工夫する。
			生徒の実態に即した教材の精選を行い、諸資料を活用したわかりやすい授業を展開し、学習意欲を高める。 1-①	A		
			時事問題や日常生活の身近な事項も教材として扱い、興味・関心を高める。 1-①	B		
		自ら学ぶ意欲を高め、理解を深める授業の工夫。	自ら調べ、問題を解決する能力を高めるために、プリント学習や学習ノートを定期的に活用する授業を展開する。 1-①	A		
			理解度を確保するため、ノートおよび学習ノート、プリントの提出を実施する。 1-①	A		
	数 学	常により良い授業への改善に努める。	授業目標に沿う授業計画を毎時間たてる。 1-①	B	B	・基本的な計算や基礎事項を理解できるようにする。 ・進路意識を高める授業展開を目指す。
			授業終了後に指導内容を点検し、気が付いた点を記録する。 1-①	B		
			定期的に、実践した授業の成果を含めて見直し、報告し合う。 1-①	B		
		基礎学力定着とその向上に努める。	教授法の改善を図る意味で、例題の扱い方や、取り扱う問題の精選のために、実践した授業への生徒の反応を確認し、評価し合う。 1-①	A		
		途切れがちな集中力を留め、学習意欲を喚起させるための学習環境の保身に努める。	適度な緊張を持続させ、意欲を持たせるための気持ちの切り替え（リフレッシュ）に必要な術を確認し合い、自己研鑽に努める。 1-①	B		
	理 科	基礎学力の向上を図る。	普段の授業を大切にし、理解度の確認のため、ノート・ワーク等の提出を行う。 1-①	A	B	・実験等の実施回数を増やす。 ・副教材等を用いて自宅学習等での内容の定着を図る
			指導内容を自然現象や生活体験に関連付けして、興味や関心を深め、理解度を高める。 1-①	A		
		授業の改善に努める。	実験・観察、演習などの教材研究をすすめ、教科内で情報交換を行う。 2-①	C		
			指導内容の前後を点検し、効果的な指導方法を研修する。 1-①	B		
			I T、視聴覚教材、副教材や演習を利用して生徒の興味関心を引き出し、学習意欲を喚起する。 1-①	C		
	保 健 体 育	生涯を通じて継続的に運動が出来る資質や能力を育てる。	個々の生徒の能力や実態の把握に努め、生徒一人一人に応じた指導を工夫する。また、自ら体調を整え体力を高めることが出来る主体性の育成に努める。 1-①	A	A	・新体力テストの数値の向上
		健康・安全・環境への意識の向上。	ヘルスプロモーションの観点から、自ら適切な生活行動を選択・実践できるような健康への意識の向上と環境への配慮をし、改善していく努力が必要であることを理解させる。 2-①	B		
		健康的な生活習慣が実践できるように意識を高めていく。 2-①	A			
芸 術	興味・関心を高め、学習意欲を高める授業。	興味を持つ題材の設定と教材の研究を重ねる。 1-①	B	B	・内容や評価について調整していきたい。 ・鑑賞の時間を確保していきたい。	
		生徒が自ら創意工夫できる指導方法の工夫。 1-①	B			
		生徒の実態に合った目標設定内容の工夫をする。 1-①	B			
	生涯にわたり芸術を愛好する心情の育成。	鑑賞の時間を通し、日本、諸外国の文化を知り、芸術に関わる喜びを味わう。 1-①	C			
英 語	基礎学力の向上を図る。	単語テストや小テストをこまめに実施し、就職・進学に向けての基礎学力を身につけさせる。 1-①	C	B	・基礎学力定着のための工夫をし、全商英検・実用英検の合格者数を増やす。 ・表現力を高めるために生徒の活動する時間を増やすように努める。	
		2・3学年の選択授業を通して、実践的な英語力を養成する。 1-①	B			
	分かる喜びを実感する授業実践に努める。	各担当者が授業内容や方法等について研究協議し、授業に生かして行く。 1-①	B			
		各種研修会に積極的に参加する。 1-①	A			
	興味・関心を高める。	A L Tとのチーム・ティーチングが全クラスでできるよう計画を立て、英語への興味・関心を引き出し意欲的に取り組ませる。 1-①	A			
家 庭	基礎的な知識・技術の習得。	実験・実習をとおして、基礎的な知識と技術を習得させ、実践する能力を養う。 3-②	A	A	・生徒の実態に応じた実験実習の精選。 ・体験型学習の充実をはかり、生徒がより主体的に活動できるように工夫する。	
	生徒の実態に応じた指導。	生徒の実態に応じて個別指導を充実させ、生徒個々の生活の向上を図る。 1-①	B			
	家庭生活の充実向上を図る実践的な態度の育成。	体験活動、視聴覚教材の活用などにより、社会と家庭生活とのかかわりを知り、よりよく生きるための実践的な態度の育成を図る。 3-②、5-②	A			
商 業	授業内容の充実。	生徒の実態に応じた指導法・教材の工夫。 1-①	B	B	・授業内容の充実を図り、資格取得へつなげる。 ・出前授業を複数校で実施し、商業の魅力を伝える。	
		科目担当者間での進捗調整や授業内容等の情報交換。 1-①	A			
		授業を受ける際の基本的姿勢と心構えの確立と徹底。 1-①	B			
	検定科目における3級の合格率向上。	基礎・基本を徹底して習得させる指導法の工夫。 1-①	B			
		生徒の実態に応じた課外等の実施。 1-②	A			
		年間を通しての計画的な課外等の実施。 1-②	A			
	検定科目における1・2級の合格率向上。	習熟度に応じた指導法の工夫及び課外等の実施。 1-②	B			
	出前授業の効果的実施。	市内中学生を対象とした出前授業の効果的実施。 5-①、②	B			

※評価基準： A 十分達成できている B 達成できている C 概ね達成できている D 不十分である E できていない